

## 第9回 神奈川県営水道懇話会 専門部会 議事要旨

日時・令和3年3月30日

場所・都道府県会館 神奈川県東京事務所 会議室（東京都 永田町）

部会員・作新学院大学名誉教授 太田 正

公益社団法人日本水道協会研修国際部国際課長 渋谷 正夫

EY 新日本有限責任監査法人 シニアマネージャー公認会計士 高橋 晶子

東洋大学 国際学部国際地域学科教授 沼尾 波子

（五十音順・敬称略）

### 1・議事内容

これからの時代に相応しい料金体系のあり方の検討について

- ・水道料金減免制度のあり方について
- ・フリーライダー対策、基本水量
- ・意見書骨子案について

#### ○ 論点と部会員の意見（概要）

論点	部会員の意見（概要）
【論点①】 フリーライダー対策	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 大口径を装着しながら実際にはほとんど水を使わず、需要責任を意図的継続的に回避しているような需要者をフリーライダーと定義付けたい。</li><li>○ フリーライダー対策として、使用実績が月100トン以下の場合には基本料金を高く、月101トン以上の場合には基本料金を低く、かつ、1,000トンを超える部分は通減制を採用するというような料金の選択制も考えられるのではないかな。</li><li>○ 固定費の基本料金と従量料金への割り振りをどうするかが基本にあり、基本料金への固定費負担の配賦割合を高めたいというのが論点となる。</li></ul>
【論点②】 基本水量	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 家事用については基本水量制を維持した考え方の中で、現状として8m<sup>3</sup>以下の使用者が多いことを鑑みて基本水量を少し下げつつ、段階的に水量の少ないところによるメリットを享受できる形にするというのが受け入れやすいのではないかな。</li></ul>